

清明学院高等学校



外観

「清明学院高等学校」は、1941（昭和16）年に大阪住吉女学校として創立し、2000（平成12）年に男女共学となった私立高校。南海高野線「沢ノ町駅」などから徒歩圏内でアクセスのよい、閑静な住宅地に立地している。



グラウンド

文武両道を基本理念とするクラブ活動にも積極的に取り組み、さまざまな実績を残している。サッカーをはじめ、プロで活躍する選手も輩出している。



トイレ入口



教室を挟んで南側に女子トイレ、北側に男子トイレを配置。また、視線配慮として男子トイレの廊下側にはパーティションを設けている。



改修前



改修前は、湿式清掃が行われていた。さらに、設備の老朽化も目立ち、男女トイレともに大便器の半数は和式便器だった。



女子トイレ 全体

洗面コーナーの水栓は、衛生性と節水性に配慮して、非接触で手洗ができる自動水栓を採用。女子トイレの大便器ブースは、ミディアムブラウンの木目調を採用し、柔らかく明るい空間を演出している。



女子トイレ 洗面コーナー

洗面カウンターは、カウンターとボウルに継ぎ目がない一体形状のボウル一体タイプを採用。すっきりとしたデザインで、汚れがたまりにくく、清掃性に優れている。



女子トイレ 大便器ブース



大便器は、タンク式と同じ給水口径15A配管で、連続洗浄が可能なパブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式を採用。便器の詰まりに備え、掃除口付きを選定している。



女子トイレ 大便器ブース

改修前は和式便器が残っていたが、快適性を向上させるため、すべて洋式便器に変更し、ウォシュレットを設置。女子トイレの紙巻器は、小物置きスペースとして利用できる棚付二連紙巻器を採用している。



男子トイレ 全体

正面の窓からたっぷりと日差しが入る、明るいトイレ空間。男子トイレの内装は、女子トイレよりも落ち着いた色の木目調材と、石目調の床材を採用し、シックな印象となっている。



男子トイレ 小便器コーナー

小便器は、節水性や床の清掃性に優れた壁掛型の自動洗浄小便器を採用。足元には、汚れが染み込まず、抗菌・抗ウイルス効果で、汚れやにおいの発生を抑える、ハイドロセラ・フロアPUを設置している。

水まわりの特長

改修の経緯

大阪市住吉区の閑静な住宅地に位置する「清明学院高等学校」は、1941（昭和16）年に大阪住吉女学校として創立。2000（平成12）年に男女共学制に移行し、校名を現在の清明学院高等学校に改称した。男子421名、女子275名（2024年現在）が在籍。コース制を取り入れ、道徳を養う躾教育やボランティア精神を育てることも重視。一人ひとりの「清明力の向上」を目指し、「強くあれ」「正しくあれ」「優しくあれ」の校訓のもと、真に社会に貢献できる人材の育成に努めている。今回、学校の魅力づくりの一環として、老朽化が進んでいたトイレ改修を計画。秋の入試イベント「オープンスクール」で、受験生が利用する西館を手始めに、学校中すべての工事を夏休み中に実施、完了した。

トイレの特長

男女トイレは、教室を挟んで南側と北側に配置され、廊下からの視線に配慮して、男子トイレ前にパーティションを設置している。器具の選定にあたっては、TOTOテクニカルセンター大阪にて、実物を確認して決定。大便器はタンク式と同じ給水口径15A配管で、連続洗浄が可能なパブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式を採用。さらに、テクニカルセンター来館時に詰まりの対処方法を体験して、掃除口付きを選定している。また、すべての大便器にウォシュレットを設置し、生徒が快適に利用できる環境を整えた。改修前のトイレは、老朽化や汚れが目立っていたが、新しくなったことで生徒もこれまで以上にいていいに扱うようになり、きれいに維持できる好循環が生まれている。

建築概要

名称	清明学院高等学校
所在地	大阪府大阪市住吉区墨江2-4-4
施主	清明学院高等学校
施工	タカセ株式会社、株式会社ダイジュウテクノ
竣工年月	（改修）2024年7月
構造・階数	鉄筋コンクリート造・地下1階、地上4階

おもなTOTO使用機器

パブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式:CFS498BMC
ウォシュレットP:TCF589AUY／棚付二連紙巻器:YH702
自動洗浄小便器:UFS900WR／ハイドロセラ・フロアPU:AB690BR
マーブライトカウンター（ボウル一体タイプ）:MH50／台付自動水栓:TLE26SS1A